沖縄南部・某小学校でのシラミ発生事例

衛生動物室　岸本　高男
比嘉ヨシ子
下謝名和子

はじめに

昭和52年以降、沖縄各地でシラミの集団発生がみられ、昭和57年1月現在19カ市町村36校に及んでいる。主な感染源は家族内で、これが学校に持ち込まれ、クラス内の感染をひき起こすことが予想される。沖縄南部の某小学校で発生したヒトジラミの感染経路を調べたので、概要を報告する。

調査方法

1．全学童を対象にクラス担任の先生にシラミ卵の附着状況を調べてもらい、そのうち疑わしい学童107名についてスキ櫛を使ってシラミ卵と虫の採集を実施した。
2．陽性者が多くでたクラスでは、全員を対象に詳しく調べた。
3．陽性者がでた姉妹については、小学校だけでなく、幼稚園児や中学生の同居家族も対象にして追跡調査を実施した。

結　果

1．ヒトジラミの発生があった学校

ヒトジラミの発生に関しては昭和52年1月に沖縄南部の保育所で集団発生があったと、某新聞で報道された。昭和53年5月から12月までに、公害衛研に検査依頼のあった検体は10件であった。そして昭和54年には保育園5ケ所、幼稚園1カ所、小学校16ケ所、小中校1カ所、中学校2カ所、計25校に及んだ。以降56年まではほぼ横ばい状態が続いている。これらの情報は保健所、市町村の衛生担当職員、養護教諭、学校薬剤師、公害衛研での駆除相談及び調査から得たもので、もっと積極的に調査すると、実態はこれを上まわるものと推定される。（図1）

昭和52年以前の記録については、沖縄本島中部で、昭和49年に2件あり、両者とも祖母から感染した事例であった。次いで、昭和51年に沖縄南部の某村からシラミの駆除相談が1件あった。

2．小学でのシラミ保有状況

沖縄南部某小学校でのシラミ被害調査結果を表Ⅰに示した。被検者総数1,357名中シラミの保有者は21名で女性徒だけであった。これに対し幼稚園では117名中6名がシラミ保有者で、その内訳は女4名、男2名で男子は長髪の子であった。小学生で姉妹間でシラミを保有する者は4家族で観察された。これらは髪の長さに起因し、家族内感染があることを示す。小学生では卵だけの保有者16名、卵と虫が付着していた子は5名で合計15個体の虫が得られた。1人平均の虫数は3.0個体。幼稚園児では卵のみの寄生者3名、卵と虫の寄生者が3名や平均虫数3.6個体で、シラミの寄生個体数は比較的少なかった。

3．学校内の感染について

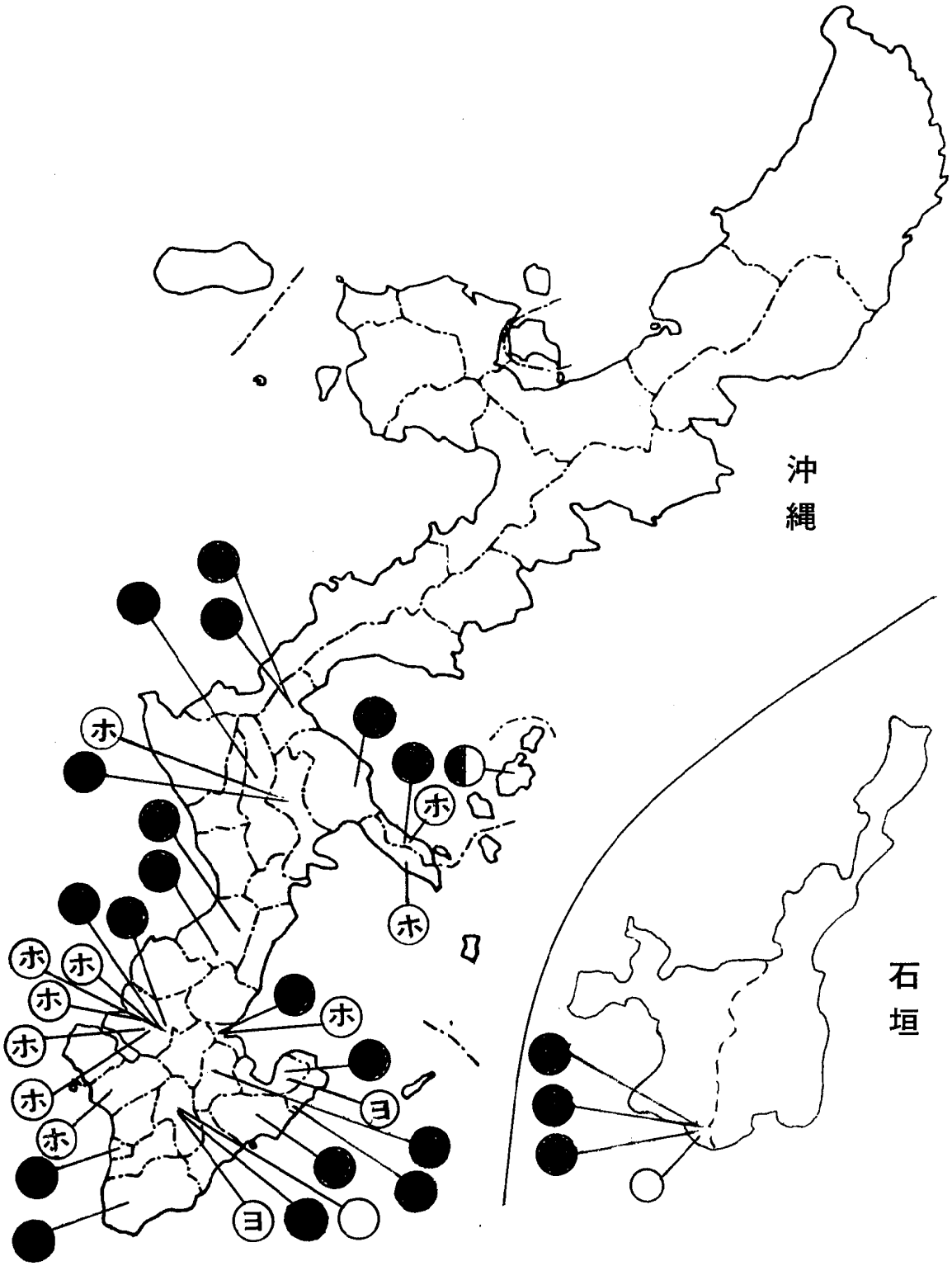
シラミの陽性者が姉妹に多く、家族内感染の可能性が大きいことに注目して、学校内での感染経路について吟味すると、学年には関係がなく（表1）、クラス内での集積性が観察された（図2）。すなわち、3年2組と1組、4年3組、5年5組と2組、6年1組に集中していた。そのうち小学校生では4家族に、幼稚園では3家族に家族内の集積がみられた。

まとめ

沖縄南部の小学校でシラミの調査を実施した。被検査1,357中シラミ保有者は21名、同様に幼稚園児117名中6名がシラミの寄生を受けていた。シラミの感染経路については家族内感染が先行し、これが学校に持ち込まれクラス内感染を起こすものと推定された。

文　献

1）稲田吉郎（1970）アタマジラミの集団発生と予防対策、昭和53年度ねずみ・衛生害虫駆除研究協議会資料：43～52.
2）岸本高男・比嘉ヨシ子・下謝名和子（1979）人間に寄生するシラミ類の発生状況について、沖縄県公害衛生研究所報、12号：90～94.



図Ⅰ．ヒトジラミの発生のあった市町村，ヨ 幼稚園，ホ 保育園，
● 小学校，◐ 小中校，○ 中学校

表1　沖縄南部某小学校でのシラミの被害調査（1979. 6. 5）

	男			女		
学年	児童数	被害者数	被害率(%)	児童数	被害者数	被害率(%)
1	132	0	0	98	1	1.02
2	125	0	0	101	3	2.97
3	122	0	0	95	6	6.31
4	112	0	0	112	2	1.78
5	117	0	0	117	5	4.27
6	115	0	0	115	4	3.47
計	731	0	0	626	21	3.35

幼稚園…検査数117名中6名が陽性
被害率は5.12％

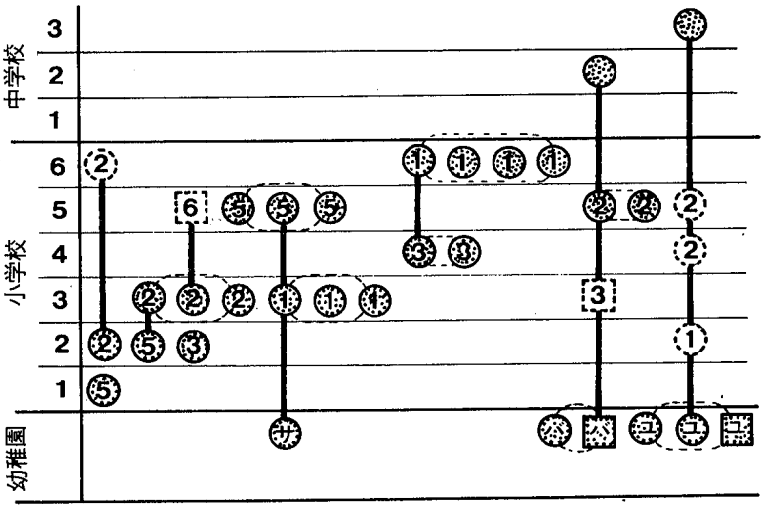


図2　ヒトジラミの家族内感染と学校内感染

◎ 女子と，　男子のシラミ保有者，
○ と　は陰性，数字は組。